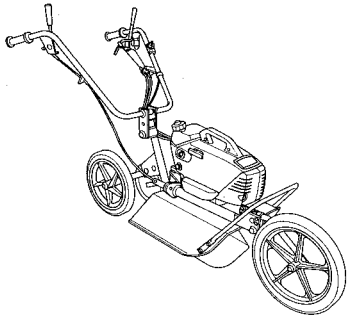
ホンダ草刈機
UM135 DX
取扱説明書

お買いあげありがとうございました。

お買いあげいただきました商品や、サービスについてお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。



ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

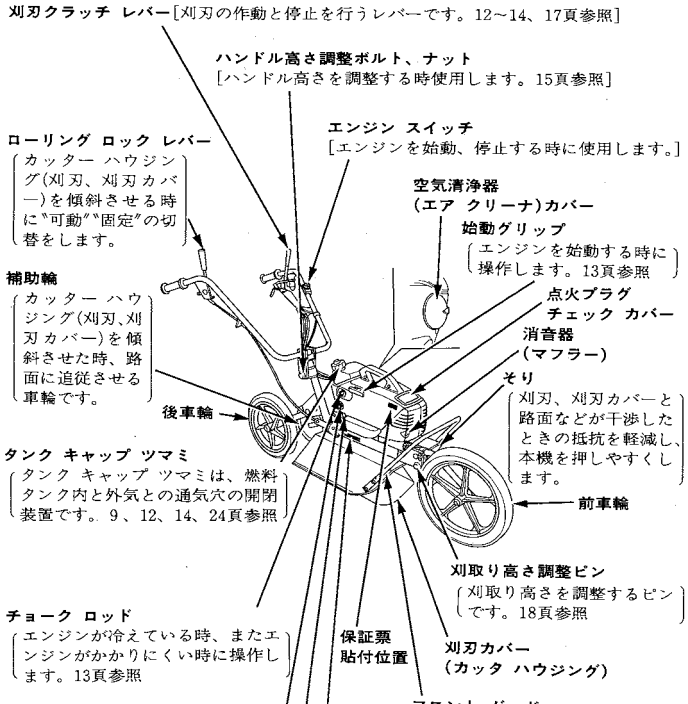
なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

30VE9610
00X30-VE9-6100

Ⓝ 10009502

各部の名称と取り扱い


刈刃クラッチ レバー[刈刃の作動と停止を行うレバーです。12～14、17頁参照]
ハンドル高さ調整ボルト、ナット
[ハンドル高さを調整する時使用します。15頁参照]
エンジン スイッチ
[エンジンを始動、停止する時に使用します。]
ローリング ロック レバー
カッター ハウジング(刈刃、刈刃カバー)を傾斜させる時に"可動""固定"の切替をします。
空気清浄器
(エア クリーナ)カバー
始動グリップ
エンジンを始動する時に操作します。13頁参照
点火プラグ
チェック カバー
消音器
(マフラー)
補助輪
カッター ハウジング(刈刃、刈刃カバー)を傾斜させた時、路面に追従させる車輪です。
そり
刈刃、刈刃カバーと路面などが干渉したときの抵抗を軽減し、本機を押しやすくします。
後車輪
前車輪
タンク キャップ ツマミ
タンク キャップ ツマミは、燃料タンク内と外気との通気穴の開閉装置です。9、12、14、24頁参照
刈取り高さ調整ピン
刈取り高さを調整するピンです。18頁参照
チョーク ロッド
エンジンが冷えている時、またエンジンがかかりにくい時に操作します。13頁参照
保証票
貼付位置
刈刃カバー
(カッタ ハウジング)
フロント ガード
ドレン コック
長期間使わない時、また車載時に燃料タンクや、気化器の燃料を抜くときに操作します。12、28頁参照
フレーム号機
位置
燃料コック レバー
燃料タンクから気化器までの燃料通路を開閉する時に操作します。
9、12、14、24頁参照

安全にお使いいただくために

これだけはぜひ守りましょう

●安全のために知っておきたいこと

★火災の恐れがある場所では作業しない。また格納の場合、火の気のないところにおくなど火災予防に十分注意してください。
★衣類や頭髪、手ぬぐいなどが巻き込まれないよう作業に適した服装及び防護メガネ、安全靴などを用いて作業を行ってください。
★草刈作業範囲内に石等の異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。人身及び物損事故が起きないよう作業時には十分注意してください。特にカッタハウジング開口部方向及び右前方の範囲内は注意してください。
★刈刃の点検、清掃及び整備する時はエンジンを停止し、必ず点火プラグ キャップを外してください。

●作業を始める前に

★ホンダが推奨する作業前点検は必ず行ってください。
★ガソリン補給時、必ずエンジンを停止してください。〈火気厳禁〉
・エンジン(マフラ等)は冷えていますか。
・ガソリンはこぼさないよう注意してください。もしガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動してください。
★前後車輪を外して、エンジンを始動させないでください。
★放出物や衝突による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れ等のすべての異物を取り除いてください。又境界線や測量用の杭等の有る所を確認し熟知しておいてください。
★防護装置(フロント ガード等)は、正しく取り付けられているか確認してから作業してください。
★屋内でエンジンをまわさないでください。

●作業中の注意

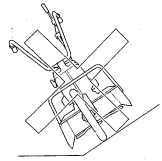
★草刈作業は日中か十分な照明の下で行ってください。
★作業中は人や動物等を周辺に近づけないでください。
もし、人や動物等が近づいたら作業を停止してください。又作業している周辺に人家や車等がある場合は、防護シート等でおおってから作業を行ってください。
★作業中は足もとに注意してハンドルをしっかり持ち、けっして走らないでください。
★移動する時は必ず刈刃を停止して移動させてください。
★エンジンを停止する時は必ず刈刃クラッチ**〝止〟**にしてから、エンジン スイッチを**〝停止〟**にしてください。
刈刃クラッチが**〝入〟**のままエンジン スイッチを**〝停止〟**にするとエンジン

が停止した後も刈刃が回転し続け危険です。エンジンが停止していても、刈刃カバー内に手足等を入れないでください。

★刈刃クラッチレバーを"止"にしたとき刈刃が5秒以内に止まることを確認してください。

★エンジンに草、木の葉等を堆積させないでください。これら可燃物が堆積すると火災の原因になったり、草刈機を破損する場合があります。

★エンジン運転中は刈取り高さの調整はしないでください。



★本機は転倒する恐れが有る斜面での作業は行わないでください。

★方向転換をする場合は、刈刃クラッチ レバーを"止"の位置にし、ローリング ロック レバーを"固定"の位置にして、刈刃を停止し行ってください。

★作業中障害物に当った時はすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するため点火プラグ キャップを点火プラグから外し(5頁参照)、損傷を調べてください。異常があればすぐに修理してください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

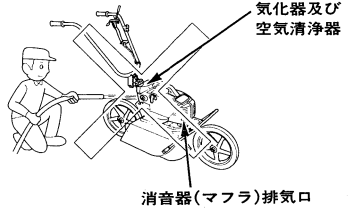
★草が濡れていたり、雨天のときは草刈作業をしないでください。足をすべらせて転倒する恐れがあります。

★長時間連続の作業をしないで、途中休憩を取ってください。

●作業が終ったら

★草刈機を移動する時は必ず刈刃を停止させ、刈取り高さを最上段にして移動させてください。

★エンジンを停止させ、冷えてから各部の清掃を十分行ってください。特に空気清浄器(エア クリーナ)カバー、空気清浄器(空気取入口)、排気系、気化器コントロール リンク廻り、に付着した草やホコリを取除いてください。



★気化器及び空気清浄器、マフラ排気口に水をかけないでください。特に後ろに倒しての放水は避けてください。

★本機から離れる時や保管時は転倒防止のため、ローリング ロック レバーを"固定"の位置にして、平坦な場所に置いてください。

★作業後はカバー等をかけるか、屋根のある場所に保管してください。

★次の作業のために機械の点検、整備を行いましょう。(5～11頁. 作業前点検参照)

★トラック等への積降し時は、燃料コック レバーを"止"にしてください。

★運搬時には転倒や落下しないよう、確実に固定してください。

エンジンをかける前に点検しましょう

★点検は平坦な場所で草刈機を水平にし、エンジンをとめて点火プラグ キャップを外して行ってください。

この草刈機は２サイクル エンジンを使用しています。必ず混合燃料(ガソリン：２サイクル オイル)を使用してください。

混合比　100：1

（ガソリン）（２サイクル オイル）

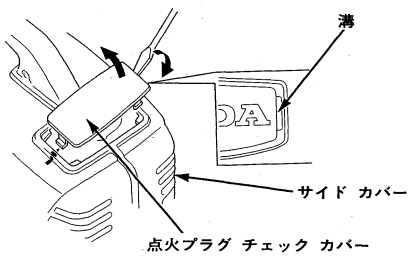
●混合燃料の点検

注意

- 火気厳禁
- 必ずエンジンをとめて補給してください。
- 燃料は注入口の口元(給油限界位置)以上に入れないでください。限界位置より上まで入れると燃料がもれることがあります。
- 燃料はこぼさないでください。もし燃料がこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動してください。
- キャップの締付けが不完全ですと燃料がもれます。確実に締付けてください。
- 混合燃料は混合比を必ず100：１で使用してください。
  (オイル量を多くしますと、カーボンがエンジン内部に付着し、また白煙の原因となります。)

点検：作業前

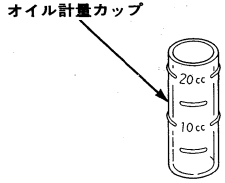
サイド カバーと点火プラグ チェック カバーの溝(凹)にドライバなど差しこみ点火プラグ チェック カバーを外し、点火プラグ キャップを外してください。



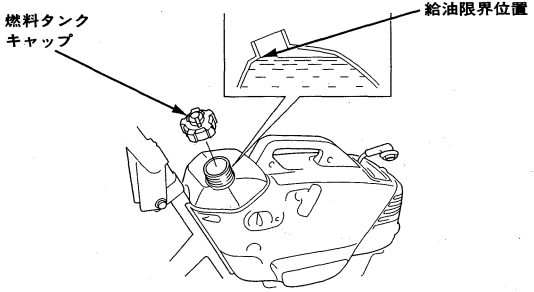
燃料タンク キャップを外し、注入口の口元(給油限界位置)まで混合燃料があるか点検します。少ない場合は補給してください。

混合燃料のつくり方

混合比は100：１の割合です。計量カップ(20cc用)を用いて下記の表を目安として、ガソリンと２サイクル オイルを別容器でよく混合して混合比の100：１の燃料にしてください。



ガソリン(100)	２サイクル　オイル(１)
600cc	計量カップ 3/10杯(6cc)
1000cc(１ℓ)	1/2杯(10cc)
1500cc(1.5ℓ)	3/4杯(15cc)
2000cc(２ℓ)	１杯(20cc)



補　給

燃料タンク キャップを外し、注入口の口元(給油限界位置)まで補給してください。

タンク容量：0.6ℓ

使用ガソリン：無鉛(レギュラ ガソリン)

混合用オイル：ホンダ ウルトラ２スーパー エクストラ

混合比100(ガソリン)：１(２サイクル オイル)

補給後、キャップを完全に締付けてください。

●空気清浄器(エア クリーナ)の点検

点検：作業前

1．空気清浄器(エア クリーナ)カバーの◁マーク横を押し、カバーを外します。

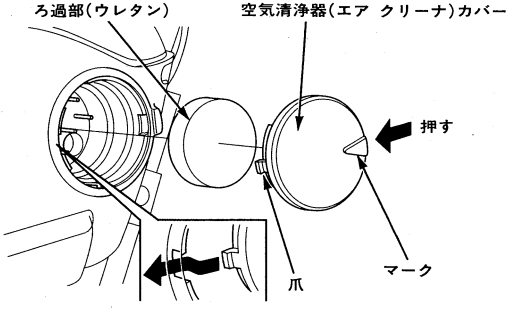
2．ろ過部の汚れを点検します。

3．汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。

4．点検後は空気清浄器(エア クリーナ)カバーの爪を溝に差しこみカバーを押しこみます。

注意

・空気清浄器(エア クリーナ)カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
・空気清浄器(エア クリーナ)カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け不良をすると、エンジンに悪影響を与える原因になります。
・ろ過部を取外す時は、空気清浄器(エア クリーナ)ケース内にゴミ、ホコリ等が入らないように注意してください。



●空気清浄器(エア クリーナ)の清掃

空気清浄器が目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時間》

清掃：シーズン前年１回ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回

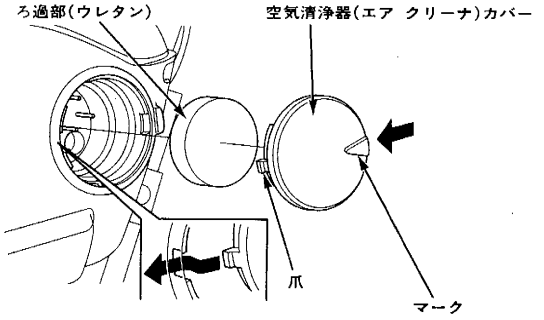
《清掃のしかた》

1．空気清浄器(エア クリーナ)カバーの◁マークの横を押し、カバーを外します。

2．ろ過部(ウレタン)を取外し洗い油で洗浄し、固くしぼってからオイル〔ウルトラ ネオ汎用機用(SAE30)、ウルトラU〈２輪車用〉(SAE10W-30)等４サイクル エンジン オイル〕に浸し、しぼります。

3．ろ過部(ウレタン)と空気清浄器(エア クリーナ)カバーを確実に取り付けます。

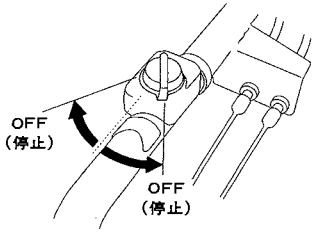
注意
- ろ過部(ウレタン)を洗浄する時は火気厳禁。
- カバーの取り付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン)が変形して取り付けられた場合、またろ過部が取り付けられていない場合にはエンジンの耐久性に著しく悪影響を与えます。

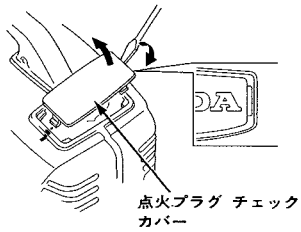


●刈刃の点検

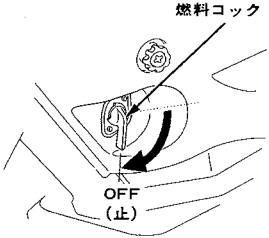
注意
- 作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。
- 作業時に縁石や木の根などに刈刃が当たり、曲りや欠損が生じていないか点検してください。
- 刈刃の摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、運転者や附近に居る人に当ったりして、重大な人身事故を招くことがあります。

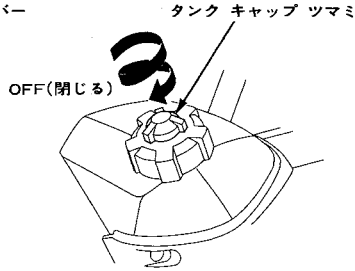
1．エンジンを停止し、点火プラグ チェック カバーを外し、点火プラグ キャップを外します。



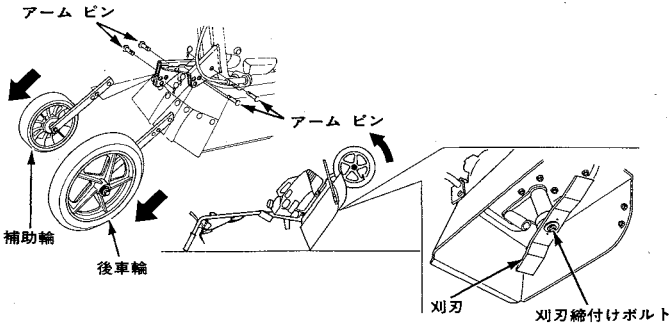


2．燃料コック レバーを"OFF"(止)の位置にし、タンク キャップ ツマミを"OFF"(閉じる)の方向(右回転)に止まるまで回します。





3．ローリング ロック レバーを"固定"の位置にして、後車輪と補助輪のアーム ピンを外し、本機を後側へ傾斜させハンドルを地面に接地させた状態で刈刃を点検してください。



注意
- この点検は、1人では行わないでください。
  必ず2人で行いハンドルをしっかり支えてもらい前部が落下しないよう注意してください。
- 長時間傾斜させたまま放置しないでください。始動性が悪くなることがあります。

4．刈刃の締付けを確認してください。

5．刈刃の曲り、摩耗を点検します。

新品



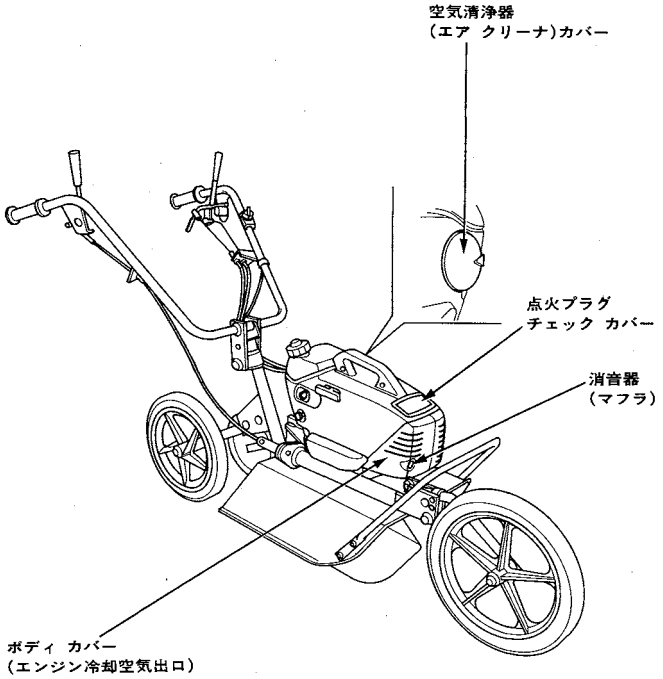
下図のような異常な状態になっていたらお買いあげ販売店で交換してください。

欠 損　　曲 り　　摩 耗



●各部の清掃点検

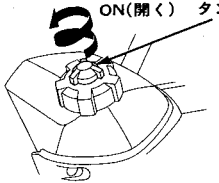
草刈機(特に下記指定箇所)に刈った草やホコリが付着していないか点検してください。
汚れている時には十分清掃してください。



エンジンのかけかたととめかた

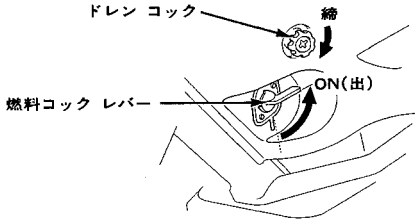
エンジンのかけかた

1．タンク キャップ ツマミ"ON"(開く)方向(左回転)に 2 ～ 3 回転させてゆるめます。

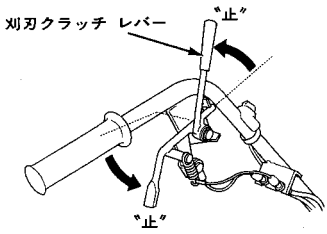


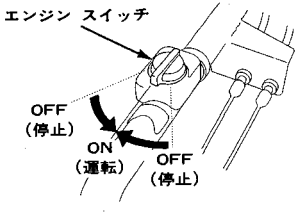
注意
・タンク キャップ ツマミ"ON"開くにしないと燃料が供給されずエンジンが停止します。

2．燃料コック レバーを"ON"(出)にします。ドレン コックが確実にしまっているか確認してください。

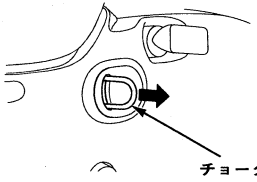


3．刈刃クラッチ レバーが"止"の位置になっていることを確認して、エンジン スイッチを"ON"(運転)の位置にします。





4．寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョーク ロッドを引きます。



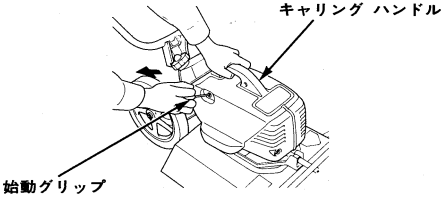
5．始動グリップを引いて重くなる位置をさがし、勢いよく引きます。

・エンジンの始動は、草刈機が安定する平坦な場所で行ってください。

・始動グリップを引くとき、後方に人がいないか確認してください。

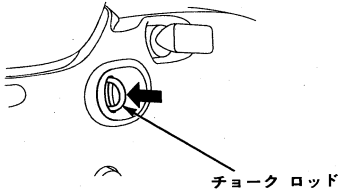
・草刈機が転倒しないように片手でキャリング ハンドルを持ち、後輪を足で固定してください。

> 注意
> ・始動グリップは手を添えて静かに戻してください。
> ・運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響を与えます。



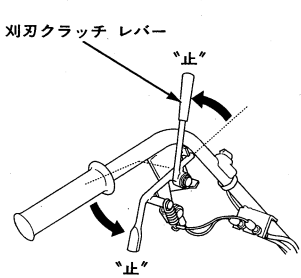
6．2～3分間暖機運転を行います。

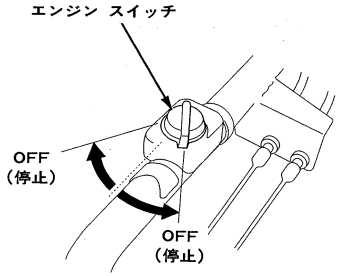
チョーク ロッドを操作したときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々にもどします。



エンジンのとめかた

1．刈刃クラッチ レバーを〝止〟にし、エンジン スイッチを〝OFF〟(停止)にします。

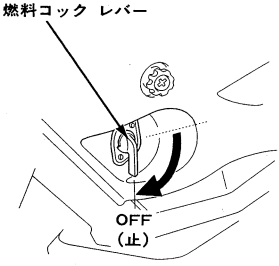


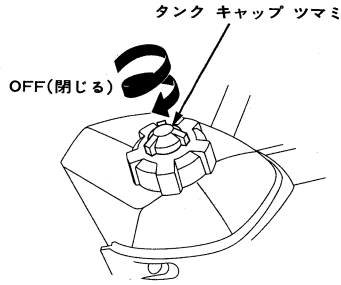


注意

・刈刃クラッチ レバーを〝入〟のままエンジン スイッチを〝OFF〟(停止)にすると刈刃にブレーキがかからず、ブレードが空転し危険です。必らずレバーを〝止〟にしてからエンジン スイッチを〝OFF〟(停止)にしてください。

2．燃料コック レバーを〝OFF〟(止)にし、タンク キャップ ツマミを〝OFF〟(閉じる)の方向(右回転)止まるまで回します。

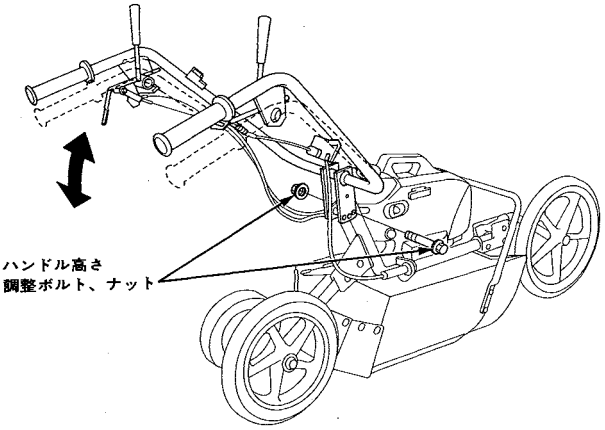




運 転 操 作 の し か た

1 ハンドル高さ調整

ハンドル高さは3段階に調整することができます。作業者に合わせて調整してください。
調整はハンドル高さ調整ボルト、ナットを使って行います。



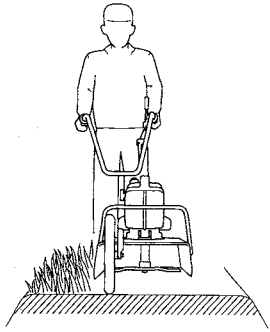
調整後は確実に締付けてください。

2 エンジン始動

エンジンのかけかた(12頁参照)に従ってエンジンを始動します。

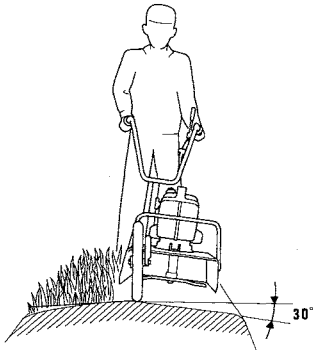
3 運転操作

1．平面作業(水平)



2．傾斜部分の作業(左側30度)

但し、前・後輪は水平路面上にある
ことを確認してください。



注意

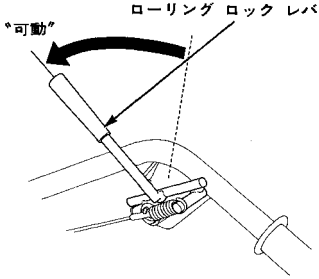
・畦上の方向転換等、刈刃カバーの安定が悪い時は、必ずローリング ロック レバーを〝固定〟の位置にし刈刃クラッチ レバーが〝止〟の位置で行ってください。

3．ローリング ロック レバー

ローリング ロック レバーを〝**可動**〟の位置にします。

注意

・ローリング ロック レバーを〝可動〟の位置にするときは、必ず刈刃クラッチ レバーが〝止〟の位置にあることを確かめてください。
・本機から離れる時や保管時は転倒防止のため、必ずローリング ロック レバーを〝固定〟の位置にしてください。

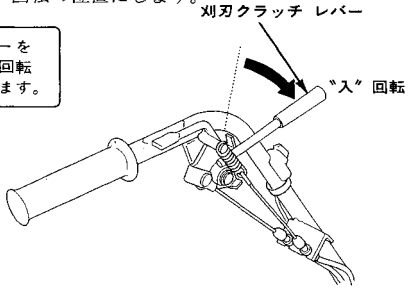


4．刈刃クラッチ レバー

刈刃クラッチ レバーを〝**入**〟回転の位置にします。

注意

・刈刃クラッチ レバーを〝入〟にするとエンジン回転が上り、刈刃が回転します。



・刈取り作業の時は、刈刃クラッチ レバーを作業地の手前で〝入〟回転にしてエンジン回転が安定してから草刈り作業を始めてください。

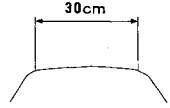
注意

・長い草の上で刈刃クラッチ レバーを操作しても刈刃が草の抵抗で回転しません。この状態を繰り返すと本機の損傷の原因となります。草の短い場所で操作するか、前輪を少し持ち上げてクラッチを〝入〟にして回転を上げてから作業をしてください。

4 刈取り作業

注意

・刈取り作業は天場(畦の上面の巾)が30cm以上の所で行ってください。



・畦には境界線や測量用の杭を打ち込んでいることが有ります。あらかじめ位置を確認し、刈取り作業時はその場所を避けてください。作業中にぶつかると重大な事故の原因となります。

1．刈取り高さの調整

刈取り高さ調整ピンにより、前輪3段階、後輪3段階、補助輪3段階の調整ができます。

25mm、36mm、46mm、56mm、68mm、78mm、90mm

注意

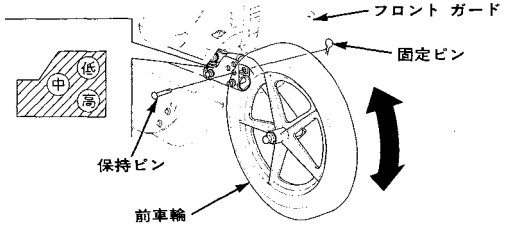
・刈取り高さ調整は必ずエンジンを止めて刃の回転が停止していることを確認してから行ってください。
・刈取り高さ調整はローリング ロック レバーを"固定"の位置にしてください。
・後輪の高さ調整は、必ず補助輪の高さと同じ調整ピンの位置(高、中、低)にしてください。

前輪刈高さ調整

・フロント ガードを片手で少し持ち上げてから、刈りたい高さにピンで調整してください。保持ピンは必らず固定ピンを取付けてください。

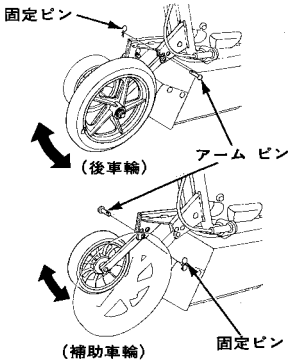
注意

前車輪が地面についている状態で高さ調整を行うと、本機の重みで急に最下段まで下がり危険です。必ずフロント ガードを持ち上げてから行ってください。



後車輪、補助車輪刈高さ調整

・ハンドルを片手で少し持ち上げてから、刈りたい高さにピンで調整してください。アームピンは必らず固定ピンを取付けてください。



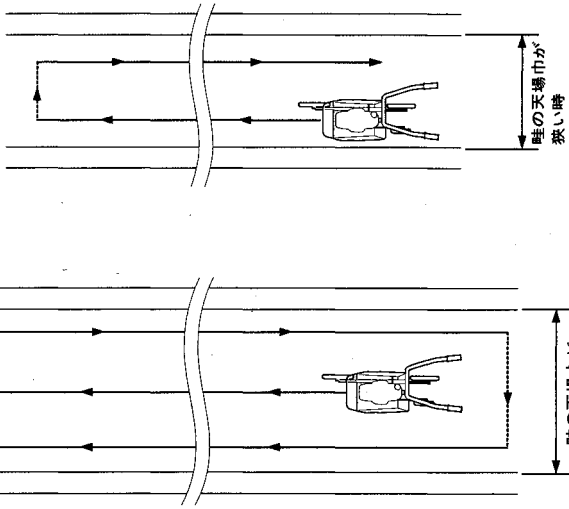
☆刈高さの設定

刈高さ調整		前輪		
	ピン位置	低	中	高
後補助輪輪	低	25mm	46mm	68mm
	中	36mm	56mm	78mm
	高	46mm	68mm	90mm

※補助車輪は後輪のピン位置に合わせてください。

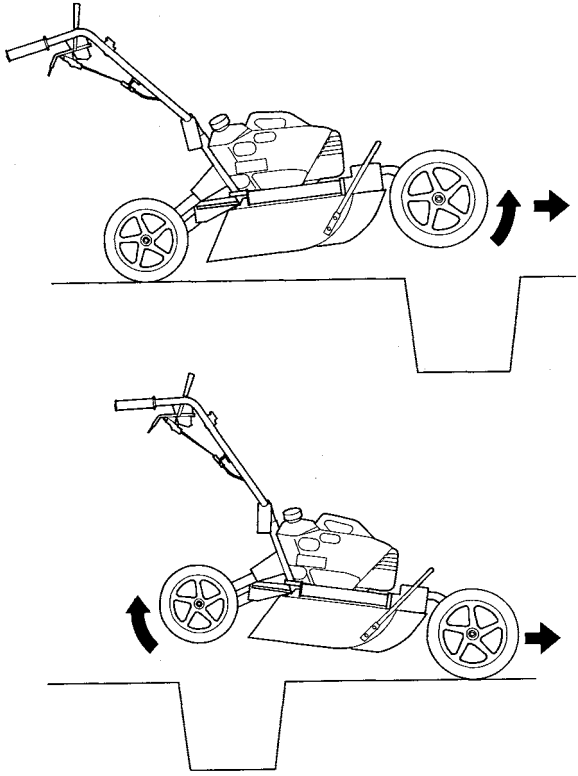
2．刈取りパターン

刈取った草は本機右側に放出されます。草が水田に入らないように下記の刈りかたをおすすめします。



3．取水口の通過

・取水口を通過する時は、刈刃クラッチを切り、手押しで前輪を持ち上げ移動し、次に後輪を持ち上げ移動してください。



4．畦上の方向転換、旋回

・畦上での方向転換、旋回で前輪又は、後輪を持ち上げる場合は、補動車輪が安定しないので、刈刃クラッチ レバーを**"止"**の位置にしローリングロック レバーを**"固定"**の位置にして行ってください。

5．起伏

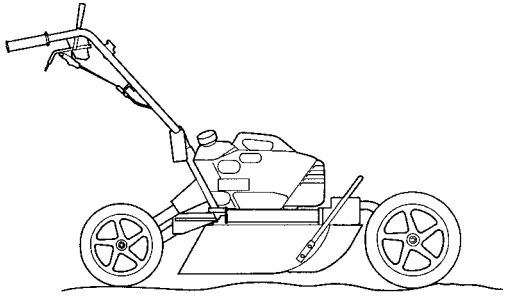
・起伏の多い所での草刈りは十分に速度を落とし、足もとに注意してハンドルをしっかりと握り作業してください。

・刈取り高さは最高位置にします。

●後輪刈高さ調整〝高〟の位置で使用する場合

起伏の多い場所、軟弱地、小石のある所、長い草や吐き出しの悪い草の条件のときは〝高〟の位置を使用し、前輪刈高さ調整の〝高〟と組み合わせてご使用ください。

上記以外のときは〝低〟の位置にし、前輪刈高さ調整でご希望の高さに調整して、ご使用ください。



注意

・条件の悪い場所で、低い刈高さで作業を行うと、地面を削り取り、石等の飛散による事故や刈取り部の損傷の原因となります。必ず前後共刈高さは〝高〟の位置で行ってください。
・条件の良い場所で前輪を〝低〟、後輪を〝高〟の状態で使用すると仕上がりも悪くまた、刈刃カバーと地面の隙間が大きくなり石等の飛散物による事故の原因となります。必ず後輪は〝低〟の位置で作業を行ってください。

●軟らかい密生した草等でエンジン回転が下がる時には、次のいずれかの方法により作業を行ってください。

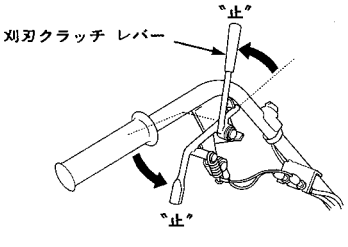
・走行を停止し、エンジン回転の回復後、再度作業を行う。
・エンジン回転が低下しない速度で作業を行う。
・草の条件に応じて刈幅を狭ばめます。
・刈取り高さを高くします。
・つる草や異物の巻きつき
・車輪や刈取り部につる草や異物(布、ロープ、針金等)が巻きついた場合直ちに刈刃クラッチレバーを解除して作業を中止してください。エンジンを停止してつる草や異物を取り除いてください。

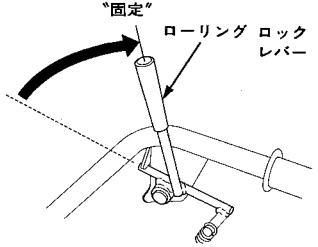
注意

・つる草や異物(布、ロープ、針金等)が巻きついたまま作業を続けるとエンジンを破損する原因になります。
・本機の刈刃が止まっても、エンジンが停止しません。この状態を長時間続けるとエンジンに悪影響を及ぼしますので、草の刈取り状態を確認しながら作業を続けてください。

草 刈 機 の と め か た

1．・刈刃クラッチ レバーを"**止**"の位置にします。
　　または、グリップ側のレバーを押しさげます。
　・ローリング ロック レバーを"**固定**"の位置にします。

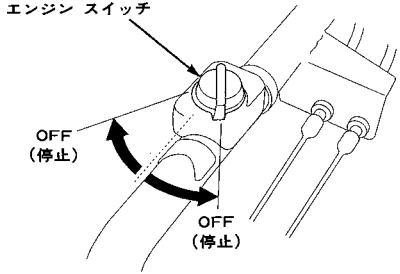




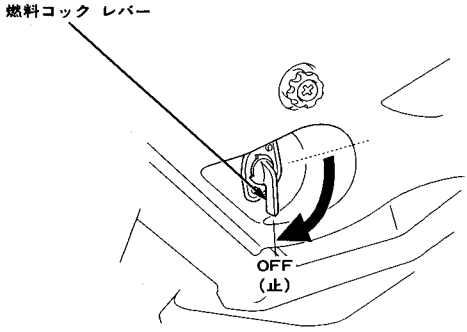
注意

・刈刃クラッチ レバーを"入"のままエンジン スイッチを"OFF"(停止)にすると、刈刃にブレーキがかからず、ブレードが空転し危険です。必ずレバーを"止"にしてからエンジン スイッチを"OFF"(停止)にしてください。

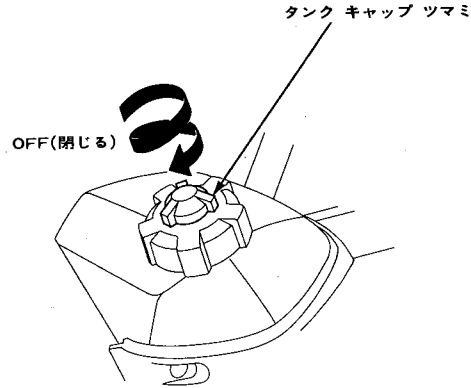
2．エンジン スイッチを"**OFF**"(**停止**)位置にします。



3．燃料コック レバーを"OFF"(止)にします。



4．タンク キャップ ツマミを"OFF"(閉じる)の方向(右回転)に止まるまで回します。



定期手入れを行いましょう

この取扱説明書に記載されているお客様ご自身で行っていただく点検整備項目のほかに、お買いあげ販売店で定期的に実施していただく項目があります。
お買いあげいただきましたホンダ草刈機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目＼点検時間		作業前点検	シーズン前年１回	25時間運転毎
空気清浄器	点検	○		
	清掃		○〈注１〉	
点火プラグ	清掃			○
	調整			○
スロットル ワイヤ	調整		○〈注２〉	
燃料タンク、燃料ろ過網	清掃		○〈注２〉	
燃料チューブ	点検	２年毎〈注２〉		
	交換	４年毎〈注２〉		

〈注１〉ほこりの多い作業の時は１日１回清掃してください。
〈注２〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげホンダ販売店へお申しつけください。

やさしい点検・整備

★点検・整備は平坦な場所でエンジンをとめ、前後車輪を外し、草刈機を水平にして行ってください。

点火プラグの点検・清掃

注意
- 標準以外のプラグを使用しないでください。
- エンジン停止直後は温度が高くやけどをする恐れがあります。作業はエンジンが冷えてから行ってください。
- プラグの取り付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》

25時間運転毎

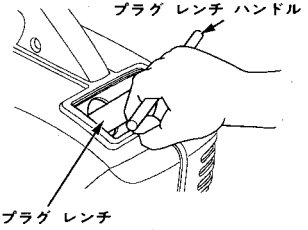
《清掃のしかた》

1．点火プラグ チェック カバーを外し、プラグ キャップを外します。

2．プラグ レンチで点火プラグを外します。

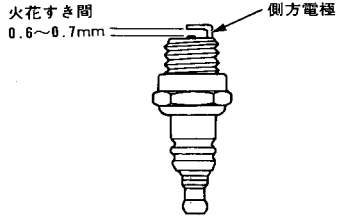
3．プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

・プラグ クリーナが無いときはワイヤ ブラシで汚れを落してください。



《調整》

・側方電極をつめ、火花すき間を0.7～0.8mmに調整します。



《標準プラグ》

BM-4A（NGK）

・プラグを取付けたあと、プラグ キャップを確実にプラグに押し込んでください。

刈刃ブレーキ ケーブルの点検、調整

刈刃ブレーキ ケーブルの調整が完全でないと、刈刃が回転しなかったり、また、停止しないことがあります。

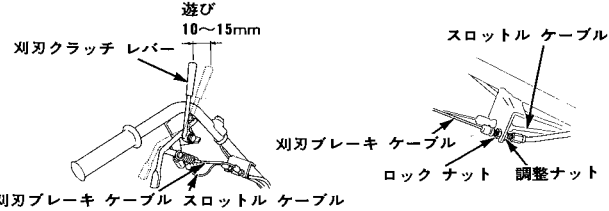
《点検》

刈刃クラッチ レバー先端の遊びが10～15mmになっていれば正常です。

《調整》

1．ロック ナットをゆるめ、調整ナットをまわして規定寸法になるように調整してください。

2．調整後ロック ナットを確実に締付けます。



ローリング ロック レバー ケーブルの点検、調整

ローリング ロック レバー ケーブルの調整が完全でないと、ローリング機構が可動しなかったり、また、固定できないことがあります。

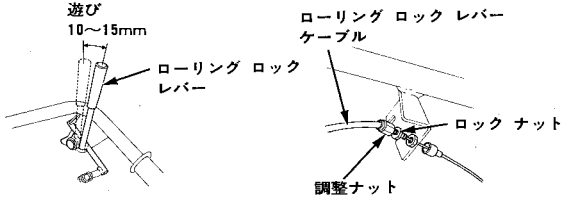
《点検》

ローリング ロック レバー先端の遊びが10～15mmになっていれば正常です。

《調整》

1．ロック ナットをゆるめ、調整ナットをまわして規定寸法になるように調整してください。

2．調整後ロック ナットを確実に締付けます。



長期間使用しない時の手入れ

★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

エンジンを停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ キャップをプラグから外してください。

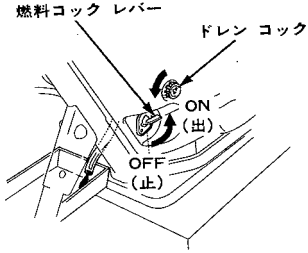
1 燃料タンク、気化器内のガソリンを抜いてください。

注意
- 燃料を抜く時は火気厳禁
- 風通しの良い場所で行ってください。
- 抜いた燃料の後仕末は十分に行ってください。
- ドレン コックがゆるんでいると燃料がもれ、引火する場合があります。

<抜き方>

1．タンク キャップ ツマミを"ON"(開く)方向(左転)に 2 ～ 3 回転させてゆるめます。(12頁参照)

2．燃料コック レバーを"ON"(出)にあわせ気化器のドレン コック(燃料排出用つまみ)を 2 ～ 3 回転ゆるめ、気化器内及び燃料タンク内の燃料を抜きます。燃料は適切な容器で受けてください。
完全に燃料が抜けたらドレン コックを確実に締め、燃料コック レバーを"OFF"(止)にします。タンク キャップ ツマミを"OFF"(閉じる)の方向(右転)に止まるまで回します。(24頁参照)



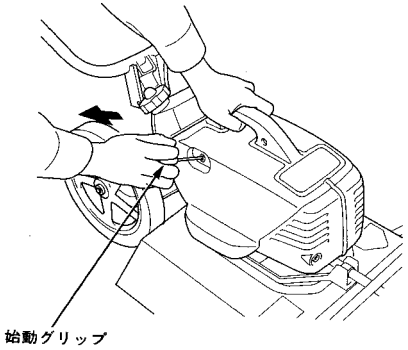
2 空気清浄器を点検、清掃してください。(7 、 8 頁参照)

3 刈刃及び各部を清掃し、締付け点検をしてください。(9 ～11 頁参照)

刈刃にエンジン オイルを塗布してください。

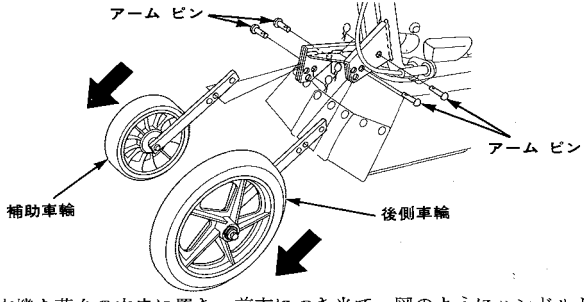
4 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。

5 屋根のある場所で保管してください。

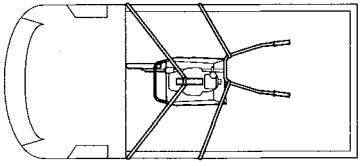


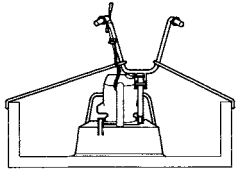
車 へ の 積 載 の し か た

1．エンジン スイッチを"OFF"(停止)位置にしてください。(23頁参照)
2．ローリング ロック レバーを"固定"の位置にしてください。(23頁参照)
3．燃料タンク、気化器の燃料を抜いてください。(28頁参照)
4．後側車輪と補助車輪のアーム ピンを外し、後輪と補助輪を外します。



5．本機を荷台の中央に置き、前方につき当て、図のようにハンドルとキャリング ハンドルにロープを掛けて本機を固定してください。
(本機が移動しない程度に軽くロープで固定してください。)





故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことが草刈機を長持ちさせる秘けつです。

始動しない時は次の点を確かめましょう。

- ガソリンはありますか？
- 混合燃料(混合比100：1)は規定通りの混合比ですか？
- 点火プラグから火花が出ますか？

この点検をする前に、ドレン コックをゆるめて気化器の燃料を抜いて、エンジン内部に混合気がこないようにしてください。またエンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またウエスで完全にふきとってから行ってください。

プラグを取り外し、プラグ キャップに取り付け、プラグをエンジンにアースさせ(感電を避けるためにプラグ キャップ以外には触れないでください。)、始動グリップを強く引きます。この時、プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

> 注意　・この点検は風通しのよい場所で行ってください。

- 始動方法は、取扱説明書通りですか？

～～～～～～～～少し時間をおいて
もう一度確かめましょう～～～～～～～～

故障の修理
お買いあげ販売店へお申しつけください。

主　要　諸　元

名称(タイプ)	UM135 K1 DX (JX)
型　　式	KZAK

エ ン ジ ン	GE35
形　　式	単気筒、2サイクル
排　気　量	34.4cm³
内径×行程	37×32mm
点火時期	上死点前25°
点火方式	トランジスタ式マグネト点火
使用燃料	混合ガソリン(100：1)
燃料タンク容量	0.6ℓ
点火プラグ	BM4A(NGK)

フ レ ー ム

全　　長	1,473mm(刈取り高さ36mm時)*
全　　幅	490mm
全　　高	882mm(刈取り高さ36mm時)*
刈　　幅	350mm
刈取り高さ	前3段、後3段(25、36、46、57、68、78、90mm)
全装備重量	26.0kg

＊ハンドル高さを最高位置にしたときの数値です。

主要諸元は製品改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。